



復刊第164号
題字 吉岡彌生

巻頭言

副会長 石原幸子

残暑厳しき折り、皆様にはいかがお過ごしでしょうか、お伺いいたします。

9月2日埼玉県熊谷市では、観測史上最高の39.8度を記録し、東京も38度になりました。地球の温暖化を気にしながら、クーラーなしの生活には耐えられませんでした。

新聞やテレビでは毎日地震や噴火を伝えております。二カ月も噴火をくりかえしていた三宅島は、自然の力になす術もなく、9月4日に全員島を離れるようにとの決定が下されました。永年住み慣れた土地を離れ、仕事を失い希望のない船出をみますと、その心境はいかばかりかと、胸が痛みました。もくもくと煙を吹き上げているこの島は今後どうなるのでしょうか。九州、北海道と続く実に三回の災害を目の当りにして、

自然の恐怖を感じずには居られません。

先日、江崎玲於奈先生が、新聞の論考の中で(学校教育とは、如何にいい人生を送るのか、どのように世に貢献するか、われわれはそのガイダンスを学校にもとめるものである。自分にあつたブループリントを作るべきノウハウを学校教育を通じて会得することである)と書いておられました。ちょうどその日、式根島の高校生が地震で寸断された島を、逆境をこえて、必ず再建します。そのためには、進学も諦めます、と胸を張って答えていた、さわやかな笑顔は頼もしく、清々しい印象を与えました。教育とはそんな難しいものではないのかと思つた瞬間でした。

昨今、世の中は、ITの時代とい

われ、政府も膨大な予算を組み講習会を開き、「IT普及国民運動本部」を、年内に設置する方針を固めたとあります。私も日本女医学会は一步早く講習会を開き、多くの皆様にご参加いただき好評を博したことは時代を先取りした良い企画であつたと自賛しております。本部におきましても、既にホームページを開き、皆さまのアクセスをお待ちしております。また日本医師会におきましても、全国展開を計画中のようです。

今年度より、日本医師会も本格的に女性医師の登用を考えられ、女性懇談会として発足した会を、三年目にして委員会に昇格されました。

そもそもこの会は平成10年の6月に、坪井日本医師会長より日本女医会長を通じて、お互いの役員と、食事しながら懇談し、双方の理解を深めようと、始められたもので平成10年7月より11年3月までを第一回、11年4月より12年3月までが第二回で終了、その間答申も提言も要らないという、不安定な腰掛け状態でしたが、今回は6月より正式のプロジェクトとして、二年間の任期もいただきます。

委員は、全国のプロック推薦の元氣な女医さんたちで医師会活動に活発に参加している役員方です。一人の委員の中、日本女医会員は、青井理事、港区の高岡邦子先生、盛岡の斎藤恵子先生と私の四人です。近い将来、女医の数が男医と肩を並べる時代が予測されます。それま

もくじ

巻頭言.....	石原 幸子 (1)
第19回学術研究助成研究経過報告	
神経芽腫マスキリーニング発見例における骨髄・末梢血中微小腫瘍病変の検出に関する研究.....水田 祥代 (2)	
発育に伴うにおける嗜好性の変化における神経機構に関する研究.....奥谷 文乃 (2)	
百周年事業について.....橋本 葉子 (3)	
高知県女医学会六十周年記念および四国女医学会三十周年記念市民公開講演会	
講師として招かれて.....平敷 淳子 (4)	
公開講座を開催して.....浜崎 浜子 (5)	
四国女医学会について.....山口 泰子 (5)	
第7回日本・シヨルダン・エジプト・パレスチナ女性交流.....堀口 文 (6)	
医療行政における女性医師の役割.....北井 暁子 (7)	
私の留学記.....大津 智子 (10)	
佐野アヤ子先生を偲ぶ.....三神 美和 (10)	
〈支部だより〉	
埼玉支部から.....深井登起子 (10)	
神奈川支部から.....大竹 輝子 (11)	
〈私の大学〉 佐賀医科大学.....岸川由美子 (12)	
・新医学豆用語辞典..... (3)	
・第46回定時総会のご案内..... (5)	
・AAUWフェローシップのおしらせ..... (11)	
・ロゴマーク決まる..... (12)	
・評議員および予備評議員名..... (13)	
・理事会議事録..... (13)	
・国際女医学会議のご案内..... (14)	
・会員動静..... (14)	
・編集後記..... (14)	

私の願いでございます。21世紀に向けて女医学会の事業も、

第19回学術研究助成研究経過報告

神経芽腫マスキリーニング発見例における骨髄・末梢血中微小腫瘍病変の検出に関する研究

福岡支部 水田 祥代

学術研究助成により行いました研究につき、報告させていただきます。

神経芽腫は小児固形悪性腫瘍のなかで最も頻度が高く予後不良の腫瘍である。生後六カ月の尿検査によるマスキリーニング(以下マス)が全国的に行われているが、開始後約一五年が経過した現在、マス症例の生存率は95%前後と非常に良好であるものの、一歳以上の予後不良群の発生率、生存率に著変がないことが指摘され、その有効性が疑問視されつつある。

一方ではマス症例の増加に伴い、マス発見例の一歳未満児の中にも予後不良例が散見されるようになり、診断時にこのような予後不良群の予測が可能であれば、マスの有効性が高まると期待される。本研究では、Reverse transcriptase-polymerase chain reaction (RT-PCR)を用いて、従来の画像診断、腫瘍マーカー等による検出の前段階と考えらるる骨髄・末梢血中の微小腫瘍病変を、マス症例の診断時において検索し、予後との関連について検討した。

方法 神経芽腫マス症例一七例 (INSS分類 Stage 1: 九例, 2: 五例, 3: 二例, 4s: 一例)を対象とし、初発時の骨髄、末梢血検体より分離した単核細胞からRNA抽出し、ヒト正常リンパ球では発現せず、神経芽腫細胞では発現が認められているTyrosine hydroxylase (TH) c44c9 neuroendocrine peptide gene products 9.5 (PGP9.5) mRNAを標的としたRT-PCR法により、検体中の微小腫瘍病変(MD)の有無を検索した。検索結果は臨床データおよび原発巣のbiologyとあわせて検討した。

目白押しです。会員皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。10⁵個中腫瘍細胞一個、PGP9.5で単核細胞10¹⁰個中腫瘍細胞一個検出可能であった。MD検索の結果、遠隔転移のない限局性症例一六例中、四例(25.0%)の骨髄中及び一例(6.3%)の末梢血中でMD陽性であった。四例の骨髄MD陽性例中一例が、腫瘍全摘後に骨髄転移により再発した。再発例の原発巣のbiologyは、N-myc非増幅、組織所見(嶋田分類)Favorable histologyであったが、予後不良因子とされるDNAヒストグラムでdiploidy pattern及びtrkA mRNAの低発現が認められた。一方再発なしのMD陽性例三例では明らかな予後不良因子は認められなかった。MD陰性例二例では、全摘不能であった一例で残存腫瘍の再燃を認めた。残り一〇例はDisease freeである。肝転移巣が消失せず治療抵抗性であったStage 4sの一例は骨髄・末梢血中MD陽性であり、N-myc 6 copies, diploidy、予後不良のbiologyを認められた。

特に全摘後に遠隔転移再発した限局性症例及び治療抵抗性のStage 4s例では、いずれも原発巣のbiologyで予後不良因子が認められており、このような症例においては、骨髄中のMDの有無がその後の転帰に影響する可能性が示唆された。初発時にMD陽性であり、予後不良のbiologyを有する場合、マス症例であっても予後不良である可能性があり、より強い治療を検討する必要があると考えられた。最後に、本研究に対し助成を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

発育に伴う嗜好性の変化における神経機構に関する研究

高知支部 奥谷 文乃

学術研究助成により行いました研究につきご報告申し上げます。

目的

幼若動物はその生存戦略として母性行動による体性感覚刺激により、いち早く母のにおいを嗜好学習し近付く行動を示す。ラットにおいても生直後に母ラットから受ける刺激は泣き声をあげるほど痛みを伴うものであるにもかかわらず、それに対する嗜好学習が成立する。ところが成熟に伴い新たな生存戦略として侵害刺激を嫌悪する学習が成立するようになる。

方法

未開眼の幼若ラットを用いる。出生、一〇日目に、冷却麻醉下にて、薬物注入用ステンレスチューブを嗅球上に留置する。翌二日目に、トレーニンゲンチャンバー内で三〇分間の古典的条件付けトレーニンゲンを行う。条件刺激であるにおい刺激としてシトラル、無条件刺激として電撃を負荷する。注入薬物はGABA拮抗薬としてビキニキニリン、GABA拮抗薬としてサクロフェンの生理食塩水溶液を用いる。

生後二日目に、シトラルに対する嗜好性をテストする。これ以外にベンズアルデヒド、パニリンを使用した。結果 一、GABA、サクロフェン受

目白押しです。会員皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

第19回学術研究助成研究経過報告

神経芽腫マスキリーニング発見例における骨髄・末梢血中微小腫瘍病変の検出に関する研究

福岡支部 水田 祥代

学術研究助成により行いました研究につき、報告させていただきます。

神経芽腫は小児固形悪性腫瘍のなかで最も頻度が高く予後不良の腫瘍である。生後六カ月の尿検査によるマスキリーニング(以下マス)が全国的に行われているが、開始後約一五年が経過した現在、マス症例の生存率は95%前後と非常に良好であるものの、一歳以上の予後不良群の発生率、生存率に著変がないことが指摘され、その有効性が疑問視されつつある。

一方ではマス症例の増加に伴い、マス発見例の一歳未満児の中にも予後不良例が散見されるようになり、診断時にこのような予後不良群の予測が可能であれば、マスの有効性が高まると期待される。本研究では、Reverse transcriptase-polymerase chain reaction (RT-PCR)を用いて、従来の画像診断、腫瘍マーカー等による検出の前段階と考えらるる骨髄・末梢血中の微小腫瘍病変を、マス症例の診断時において検索し、予後との関連について検討した。

方法 神経芽腫マス症例一七例 (INSS分類 Stage 1: 九例, 2: 五例, 3: 二例, 4s: 一例)を対象とし、初発時の骨髄、末梢血検体より分離した単核細胞からRNA抽出し、ヒト正常リンパ球では発現せず、神経芽腫細胞では発現が認められているTyrosine hydroxylase (TH) c44c9 neuroendocrine peptide gene products 9.5 (PGP9.5) mRNAを標的としたRT-PCR法により、検体中の微小腫瘍病変(MD)の有無を検索した。検索結果は臨床データおよび原発巣のbiologyとあわせて検討した。

考えられた。

論文発表

奥谷他(1999)日本味と匂学会誌

日本女医学会百周年に当たって 百周年事業について

会長 橋本 葉子

日本の女性医師の教育機関でありました済生学舎の卒業生であります

前田園子先生や吉岡彌生先生たちが中心になられて、女性医師の親睦と研修を兼ねた会合を持つために、日本女医学会を創立されましたのは1902年(明治35年)でありました。その後、女性医師の増加に伴い、日本女医学会も会としての組織を作るようになり、1914年(大正3年)に第1回総会を上野精養軒で開催しております。

しかし、今日のような組織になりましたのは、戦後の1957年(昭和32年)以来のことであり、1969年(昭和44年)には社団法人格を得し、現在に至っております。

このような経過を経て、2002年には創立百周年を迎えますので、執行部は次のような記念事業を考えております。

一、百周年記念式典・祝賀会 2002年5月18日(土)、京王プラザホテルにおいて式典・祝賀会を開催する予定にしております。可能な

6,355-

Zhang et al., Developmental Psychobiology, in press

chobiology, in press

6,355-

らば、式典に皇室のどなたかのご臨席を仰ぎたいと考えております。

二、百年史の刊行

日本女医学会は百年になろうとする歴史を有しながら、節目にそれまでの記録をまとめていまいようであり、唯一、日本女医学会誌が数号の欠号のみでバラバラながら保存されていることが分かります。急いで複製いたしました。この資料を基に、諸先生からお手元の資料を頂戴したり、拝借したりしながら、「これぞ日本女医学会の歴史である」と誇れるような百年史を作りたいと考えております。

三、第26回国際女医会議の日本への誘致

1976年8月22日〜27日までの六日間にわたり、東京の京王プラザホテルにおいて第15回国際女医会議が開催されましたことは、皆様ご記憶のことと存じます。この時は日本女医会員六四〇名、同伴者四五五名、外国より四四四名、総計一一二九名が参加されました。テーマは「ウイ

新医学用語辞典

RT-PCR (Reverse Transcriptase-Polymerase Chain Reaction)法 《逆転写酵素によるポリメラーゼ連鎖反応法》

PCR法とはDNAあるいはRNA断片を大量に増幅する酵素的化学反応法をいう。DNAの場合は①増幅したいDNA領域の2つの3'末端にそれぞれ相補的な2つのオリゴヌクレオチドプライマー(1)を用意する。②試料DNAを熱変性させ、温度を下げ用意したオリゴヌクレオチドプライマーとアニーリング(2)させる。③DNAポリメラーゼ(3)によりプライマーを伸長させる。この3つのステップからなる反応を繰り返し行くと、原理的にはn回のサイクルの後には2^n倍のDNA鎖のコピーが作られる。

出発材料がRNAの場合は逆転写酵素によってcDNA(4)に変換してから行う。Kary B. Mullisによって発明されたこの技法は今や分子遺伝学における最も重要な技術の1つになっており、Mullisはこの発明により1993年度のノーベル化学賞を受賞している。

- (1)プライマー：核酸合成において開始反応に要求されるオリゴヌクレオチド分子のこと。(2)アニーリング：水溶液中で熱変性させ一本化したDNAを相補鎖と共に融解温度以下まで徐冷すると、塩基間の水素結合が再構成され、二重螺旋構造が復元する。この現象をDNAのアニーリングという。(3)DNAポリメラーゼ：4種類のデオキシリボヌクレオチド5'-三リン酸からピロリン酸を遊離してDNAを重合する働きを持つ酵素。(4)cDNA：complementary DNA：相補的DNAのことで、RNAと相補的な塩基配列を持つ一本鎖DNAのこと。

となっており、

従来は国際女医会議開催国は六年前に決定しておりましたが、ケニアでの会議が急遽変更せざるを得なかったことが発端になり、第26回から三年前に決定することになりました。従って2001年4月にシドニーで開催されます第25回国際女医会議総会において、第26回国際女医会議開催国が決定されることになりました。

日本女医学会と致しましては、現在のような経済状態の中での誘致について熟考しましたが、百周年記念事業として国際女医学会を企画しないことと次はいつになるか分からないというところもあり、この際誘致に踏み切りました。シドニー会議のご案内は前号に掲載されておりますので、演題もたくさん出していただきたいと思っておりますし、会議にも大勢の方に参加していただけることを希望しております。

望しております。もし、来年のシドニー会議で日本での国際女医学会開催が決定致しました暁には、わずか三年の間にすべてを行わなければならないので、会員皆様のご協力を仰がなければなりません。その節はなにとぞよろしくご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

頁に掲載されておりますように決定しました。今後は日本女医学会のシンボルとしていろいろなものに使用していただきたいと考えております。以上、現在執行部が考えております百周年記念事業計画をご紹介します。記念事業はお金のかかることばかりですので、これからは経済的な面でも皆様のご支援、ご協力をお願いしなければなりません。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

高知県女医学会六十周年記念および四国女医学会三十周年記念市民公開講演会

講師として招かれて

理事 平敷淳子

記念すべきお祝いの折に、市民公開講演会にお招きいただく光栄にあずかりました。「体の中をのぞいてみましょう」と題させていただきます、医学や医療に携わっていない市民の方に人体の画像を分かりやすく解説したいと準備しました。きれいな画像で見せたいと、今回はコンピュータを用いて講演させていただきました。動画やアニメーションをまぜ、楽しい講演にしたいと心掛けました。解説は頭部、胸部、腹部、骨盤、血管系と部位ごとに解剖を解説し、かつその画像のもととなった画像法も簡単に説明しました。頭部単純X

線写真では骨、軟部組織、空気(副鼻腔や口腔など)と頭蓋内の石灰化や骨化しかならなかつた時代からX線CTへと移り、脳室や脳実質が画像化でき、さらにMRI(磁気共鳴画像)では脳実質の白質、灰白質はもとより血管系も鮮明に分かるようになり、拡散強調画像による水のブラウン運動の画像化までを事例とともにお示ししました。

ぶさらず、上肺も下肺も充分視野にはいった胸部写真をとるための手段を分かっていただきました。しかし、昨今の高分解能CT(High Resolution CT, HRCT)でみられる二次小葉の画像は、より詳細な病理診断へと近づけるほど分解能のよい画像となっております。腹部骨盤では肝臓、脾臓、腎臓をはじめとする実質臓器が体のどこにあり、どのように見え、それらは病気でどのようにみえるのかを、主にCTで説明し、専門的には三次元の画像処理を行いつながり診断している旨お話いたしました。三次元画像処理のなかに仮想内視鏡(Virtual Endoscopy)という方法もあり、体の中に内視鏡は挿入されていないのに、あたかも内視鏡のぞいているような画像も用いられていることを気管・気管支のVirtual Endoscopyで示しました。これは動画でお示しし、あたかも自分が気管・気管支

の中を走っているような感じを与えることができたと思っております。血管系もMRA(Magnetic Resonance Angiography)の手法で全身の血管が「瞬き」の間に写し出される様子をお話しました。熱心な聴衆の方々、コンピュータの操作をお手伝いくださった親切な高知市医師会の事務の方、プロジェクターをご提供くださ

った高知医大の方々(吉田祥二教授ほか)にお助けいただき、気持ちの良い講演をさせていただきました。文末になりますが、高知県女医学会、四国女医学会の皆様へ深く感謝いたしますとともに、ますますのご発展をお祈りいたします。

にも増しての収穫であったと思いました。先生方を、高知空港にお送りしての帰り道には、花合歓がとても美しく、咲いていました。合歓の花たぐり寄せたる闊淡く

公開講座を開催して

高知支部 浜崎浜子

今、平敷淳子先生の講演を終えて盛大な拍手が湧き上がっています。平成12年6月26日の新阪急ホテルのことです。

タイトルは、「体の中をのぞいてみましょう」で、頭から足の先まで脳や肺、心臓、血管に至るまで、X線、CTスキャン、MRIによる画像をコンピュータを駆使されての講演でした。

このたびの日本女医学会公開講座は、高知県女医学会六十周年記念事業として企画されました。平成11年1月より、私たち八名の実行委員は、月一〜二回のペースで会合を開き、公開講座の日時・会場・会費・チラシの配布のこと、ペビシッターの件等々を話し合ってきました。

その内容は、体の仕組みが判り易く、聴講者一三〇名全員が、その講演に深く引き込まれました。講演会終了後、牧野博物館へ向かい、普通では公開されない、牧野富太郎博士の四万冊におよぶ貴重な蔵書を見学することができました。

前日の高知県女医学会六十周年記念祝賀会には、本部より、橋本葉子会長他、一四名もの先生方にご臨席を賜わり、心よりお礼申し上げます。平敷淳子先生は、埼玉医科大学放射線科教授で、お人柄はもろろんのこと、研究の面においても多大な実

績をあげておられます。今回は、高知県女医学会が一丸となつて準備をしたことで、今まで無関心な先生にとつても日本女医学会に対する意識が高まったこと、とくに若い会員にそれが見えたこと、などが何

四国女医学会について

高知支部 山口泰子

平成12年6月24日、三十周年祝賀会を迎えた四国女医学会はついに幕を閉じ、今後は日本女医学会総会に出席

して、またお会いしようと思つてを約束し解散となりました。そもそも四国女医学会は昭和46年、

その後、第30回総会まで、それぞれの県で趣向をこらし、前夜祭にはその地方の芸能を披露、総会の後に

第46回 定時総会のご案内

- 開催日 平成13年5月19日(土曜日)
- 会場 ホテルニューオータニ佐賀
〒840-0047 佐賀県佐賀市与賀町1-2
TEL.0952-23-1111 FAX 0952-23-1122
- 日程 ◎平成13年5月18日(金曜日)行事
講話 17:30~
前夜祭 18:30~
◎平成13年5月19日(土曜日)行事
朝食会 8:00~
評議員会 10:30~
昼食 12:00~
記念講演 13:00~14:30
「女性のための司法医学について」
東京医科歯科大学教授 伊藤洋子先生
総会 14:30~17:30
懇親会 18:00~20:30
アトラクション 「面浮立」
「ゴーシェの会」チェロ演奏
- ◎平成13年5月20日(日曜日)行事
①吉野ヶ里・柳川ツアー
②唐津・呼子ツアー
③有田 日帰りツアー
1泊2日ツアー(ハウステンボス)
④ウィンブルドン佐賀 テニスツアー
⑤富士カントリークラブ ゴルフツアー
- (具体的なお案内は次号に掲載いたします)

遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤 **薬価基準収載**

創薬、指定医薬品、要指示医薬品：注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

EPOGIN® 750 6000
1500 9000
注 3000 12000

EPOGIN® Injection 一般名：エポエチン ベータ(遺伝子組換え)

※効能・効果、用法・用量、使用上の注意、取扱い上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

CHUGAI 中外製薬 [資料請求先]
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

CEP9057 1999.5

は県内の著名な方々に講師をしていただき、有益な講演を聞かせていただきました。

香川県では「讃岐の文化財」の草薙金四郎先生の講演や琴平の金丸座の見学、愛媛県では吉野義子先生の「俳句の心」や砥部動物園々長山崎泰先生のウォーウォーで始まった講演、徳島での会と一緒に踊った「阿波踊り」や藍染の実習、鳴門鯛に舌づつみを打ったこと、高知県では小椋先生の「龍馬の手紙」の講演や龍馬記念館や牧野植物園の見学など、立派な講演を聞き、見聞を広め、印象深く、楽しい思い出がたくさんできました。

しかし、時代の変遷と申しまじょうか、発会当初の会員の先生方は次第にご高齢となり、また故人となられた方も多くなりましたが、若い新入会の会員は次第に減少し、一泊して総会に参加できる方はますます少なくなりました。もちろん新入会の方を迎えるべく各県とも努力をしてみました。各県に医学部・医科大学ができ、友人関係の変化が見られ、若い女性医師は研究、診療、育児に時間的余裕がなく、会員の勧誘にも限界が見えてきていました。それで、会の設立当初の高知県支部長であり、現在四国女医学会名誉会長の窪敦子先生のお許しを得て、また会員の方々にはアンケートでご意見をお聞きし、三十周年を契機として、四国女医学会は解散と決定しました。非常に残念ではありますが、

今後はこの四国女医学会で培った会員のきずなを大切に、日本女医学会総会にはなるべく出席して再会を果たしたいものと思っています。四国四県

豊島支部 堀口 文

第7回日本・ジョルダン・エジプト・パレスチナ女性交流

平成12年6月26日(月)、第7回日本・ジョルダン・エジプト・パレスチナ女性交流のプログラム参加のため来日された方々の歓迎レセプションが、東京赤坂の赤坂プリンスホテルにて開催されました。

この会は外務省および国連NGO国内婦人委員会(中村道子委員長)の主催によるもので、主催者側の構成メンバーである日本女医学会からも歓迎のため山崎倫子名誉会長、石原幸子副会長、平敷淳子理事および堀口文評議員が出席しました。

ジョルダン、エジプトおよびパレスチナ(初参加)から看護婦や産婦人科医などの専門職を含む有職専門家たちそれぞれ二名合計六名、日本から招聘された各国在日大使館員、外務省など総勢五〇名以上の出席者を迎え、暖かい歓迎会が催されました。

翌6月27日(火)午前、港区の女性と仕事の未来館において「女性の健康」をテーマにした会議が行われました。

の会員の先生方、本当に三十年間ご協力くださいましてありがとうございました。

た。日本女医学会からは山崎倫子名誉会長と堀口文評議員が出席、三つの国の女性の就業状況、労働条件、保健管理、リプロダクティブヘルス/ライツ、就労支援、仕事と家事および育児の両立、そして女性が自立するための就労促進としての教育などについて、それぞれ報告がありました。いずれの国においても雇用条件は男性より悪く、心理的、身体的な圧迫となり、女性自身の健康はもとより育児にも影響を及ぼすので、子供の発達にも問題が起きているとのことでした。また女性が高等教育をうけてもそれに適した仕事につけることがなく、ましてや一般の女性は働ける仕事は少ないとの報告でした。一方日本側からは、先にニューヨークで行われた女性会議について、国際大学女性連盟の房野桂委員と、労働や雇用の法律とその適用の評価について、日本女性法律家協会若菜充子氏から報告がなされました。幹事で司会担当の日本看護協会の南

医療行政における女性医師の役割

国立精神神経センター 運営部長 北井 暁子

佐子会長は本会議を総括し、三国は日本からは遠く、しかも異文化の国でありながら、女性たちの労働条件も健康への影響も日本とまったく同様であり、日本でも男女雇用機会均等法など法律上は改善され、妊婦や育児女性への優遇などが盛り込まれ

てはいるが、その適用は狭められ、働く女性とその子供たちにとって健康上の問題を多々抱えているので、われわれ女性には国境を超え一致協力して社会に働きかけてゆかねばならないと結論し、このセッションを閉会しました。

平成11年のわが国の老年人口は、全人口の16・7%にのぼり、合計特殊出生率は1・34にまで低下するなど、21世紀を目前に控え、急速な人口の少子高齢化がすすんでいます。

そのような中、わが国の疾病構造もこれまでの急性疾患から慢性疾患へと中心が移り、患者が生活の中で疾病と共存しながら医療が行われるようになってきました。

臨床の現場では、治療成績という医学的側面ばかりでなく、患者の側すなわちサービスを受ける側から見た新たな評価の視点に立って、

QOL (Quality Of Life = 生活の質)
ADL (Activities Of Daily Living = 日常生活動作能力)
DALY (Disability-Adjusted Life Year = (障害調整生存年) = 生活の質を調整した生存率)

などが採りあげられ、それらに医師が目をつける必要性が高まってきています。

さらに、本年4月からは介護保険制度がスタートし、利用者の選択により保健・医療・福祉にわたる介護サービスが総合的に利用可能となりました。

このような社会保障制度の枠組みの変化の中で、医師の果たす役割は年々重みを増しているのが現状です。

一方、現在の医療は、国際化・情報化・環境問題など、社会を取り巻く状況が大きく変化しており、科学的根拠に基づいた、安心して良質な医療の供給体制を確保することも大きな課題となっています。

医療の担い手である医師も、このように変化する社会との接点のなかで幅広い視野に立つて人間性豊かなそして個々人のライフスタイルに合

つたきめの細かなサービスの展開が求められてきており、医療行政の企画立案にもこのような視点が欠かせません。

これまで男性が大半を占めていた行政機関にも女性医師が年々数を増し厚生省を中心とした中央省庁のみならず、地方自治体、WHOなど活躍の場は大きく広がっています。

また来年からは、省庁改革の一環として、「厚生労働省」が発足し、保健・医療・福祉行政と労働行政が一体となって進められることにより、高齢者施策・子育て支援施策・障害者施策など、これまで両者が別々に

行われてきた施策が有機的な連携のもと、積極的に推進されようとしています。

常に時代に応じた課題に対応しつつ、国民の生命、健康を守り、安全な生活を確保していく上で重要な役割の一端を担っているといえるでしょう。

しかし、実際にサービスとして国民に届くまでには、さまざまな場面で活躍の臨床医の先生方のご協力が必要であります。

医師としての高い専門性に加え、生活体験豊かな女性医師が、保健・医療・福祉行政のさまざまな分野でご参画いただき、サービスの消費者としての視点に立つて常に社会のニーズに高いアンテナを張って取り組んでいただけることを期待しております。

自然と健康を科学する漢方のツムラ



ツムラは、医療用漢方製剤の科学的研究を通じて、21世紀に至る長寿社会に貢献していきたいと願っております。

株式会社ツムラ
東京都千代田区二番町12-7 千102-8422
電話(03)3221-0001

本剤のご使用にあたり、
[使用上の注意]等詳細については、
製品添付文書をご参照ください。

30days
1回30日間分投薬可能

STAY ON THERAPY

AA ニューロタン錠 50
NU-LOTAN (ロサルタンカリウム錠) (薬価基準収載)

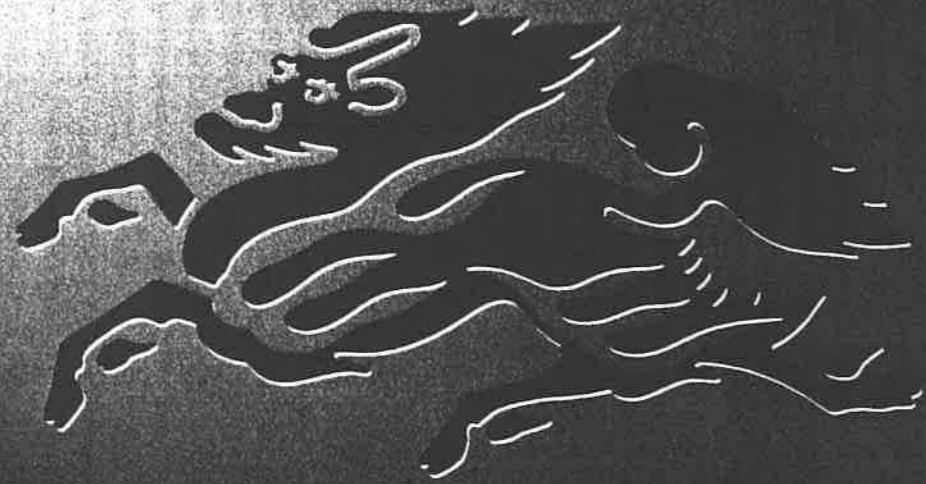
2000年4月作成 ©Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

[資料請求先]
萬有製薬株式会社
〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3
ホームページ http://www.banyu.co.jp/
インターネットナンバー: 1193 (い-い-く-スリー)

02-01C2R00-J-0708J

KIRIN 新鮮な明日へ

バイオのキリン



キリンの医薬が、夢を限りなく広げていく。

つねに新しい可能性を追求する研究者の熱意と、バイオテクノロジー領域における豊富な知の蓄積。そこから、キリンの医薬品が誕生します。なかでも血液関連の分野では、エリスロポエチン(EPO)や顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)の実用化など、多くの独創的な成果をあげています。バイオ技術による新薬の開発を通じて明日の健康な生活に貢献できるよう、私たちは、研究開発から製造販売までの一貫体制をめざしています。私たちは、バイオのキリンです。

キリンビル株式会社

医薬事業本部

〒150-8011 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号

内覧・体験入居随時受付

サクラピア
SACRA 成城

高齢者用集合住宅 介護付終身利用型



セコムと森ビルが提唱する
60歳からの快適と安心の日々

レストラン
ヘルシーな特別料理から
本格グルメ料理まで
楽しめる幅広いメニュー



クリニック
24時間365日
医師と看護婦が
常駐する安心感



サロン
自由に使える
くつろぎの
スペース

お問い合わせ先は…
03-3789-2111
サクラピア成城までお気軽にどうぞ
〒157-8566 東京都世田谷区成城8-22-1

錦秋の内覧会&昼食会のご案内

サクラピア成城では、下記の日程で錦秋の内覧会&昼食会を開催いたします。ご入居をお考えの皆様には館内のご案内と、旬の食材を使ったおいしい「ふく鍋御膳」をご賞味いただけます。

〔日時〕平成12年11月17日(金)18日(土)19日(日)20日(月)21日(火)の5日間
レストラン営業時間 11:30~14:00
内覧時間 10:00~17:00

〔お食事代〕お一人様 2,800円(消費税別途)
予約制です。ご参加をご希望の方は、上記のお問い合わせ先に11月13日(月)までにお電話ください。

期間限定特別価格のご案内

(平成12年10月1日から平成12年12月31日まで)
(15年間全額償却システム)

- Aタイプ 68.37㎡ (20.68坪) 5階508号室 入居金額 1億3,000万円
- B₂タイプ 60.21㎡ (18.21坪) 1階114号室 入居金額 1億1,500万円
- Dタイプ 92.34㎡ (27.93坪) 3階303号室 入居金額 1億9,408万円~

このほかにも、より面積の広い居室が数室ございます。

私の留学記

在アメリカ 大津智子

毎朝、私がまず立ち寄るのは、下宿の隣のカフェだ。日本から持参の青い水筒を差しだすと、炒りたての日替わりコーヒーをなみなみと注いでくれる。この店のコーヒーは、いわゆる「アメリカン」ではなく、こくがあり、私の目を覚ますのにはもってこいだ。朝が弱い私には、すっかり不可欠となった。それをもって、シャトルバスで登校するのが7月からの私の日課となった。

今、私は Johns Hopkins University The School of Public Health に留学中である。久しぶりの学生生活を始めて、まだ一カ月。ようやく周りが見えてきた気がする。私の在籍する、

佐野アヤ子先生を偲ぶ

名誉会長 三神美和

佐野アヤ子先生の訃報に接し、私は呆然としてわが耳を疑った。しばらくお会いしていないがあの元気だった佐野先生が何で亡くなられたか、ご病氣は何であったか詳細はまだ分らないというがハワイで最後を終えられたという。先生はもともとハワイが故里であられるのでハワイで最後の時を過ごされたことはご満足であられたことと思う。日本女医学会本部から知らせを受けた時の衝動は共に日本女医学会の役員として活動

した当時を回顧する刺激となった。私が日本女医学会々長として十八年間在任中、彼女は渉外部理事として私を助けて下さった。国際女医学会の一員として日本女医学会が大きく飛躍できたのは国際連絡書記であった彼女の活躍に負う所が大きい。日本女医学会主催で東京で国際女医学会が、1976年に開催され、成功をおさめたのは先生のご活躍に負うところが大きい。ハワイで生れ育った先生は母国語の如く英語が堪能であられ

たのでその能力をフルに発揮されたのである。

私が佐野先生を知ったのは神原伴先生が主宰された心臓血管研究所で発行する英文雑誌の係として心研に勤務された時である。それ以来親しくしていただき、私が日本女医学会々長就任時には先生も日本女医学会と関係されるようになった。私が会長を辞めた後も彼女はひきつづき日本女医学会に貢献され、この長い間の日本女医学会に対する功績は特記すべきものであり、ただ感謝あるのみである。あまり上手でない日本語でとつとつと語る言葉が今も耳に残っている。

去る7月15日(土)大宮ソニックシティにおいて支部総会が行われ、本部から橋本葉子会長、石原幸子副会長にご出席いただきました。過密スケジュールの合間を縫ってのご出席誠にありがとうございました。それぞれのお立場から挨拶をいただき、女医学会の今後の事業の概要について説明があり、新しい発展のためには会員一同心を新たにいたしました。

支部だより

埼玉支部から

支部総会を開催して

埼玉支部 深井登起子

ばならず、さらに過酷なスケジュールを強いられる。のほほんとして過ごした医学生時代のつげがここで一気に回って来た気がする。

しかし、そんな苦勞も、世界各国の学生たちと話すことで一気に吹き飛んでしまう。私の同級生は、年齢二十代から六十代、医学生、医者、弁護士、獣医、新聞記者、マツサジ師など、さまざまな肩書きをもつ三七カ国からの約二〇〇人。(ちなみに男女比は四対六位で、圧倒的に女性優位のクラスである。)ビルマから政治亡命したあとで、アメリカで医学を卒業し、母国に帰るべく奮闘している女性、国境無き医師団と

して長らくアフリカで働いていた女医、NYのジャズ奏者で突然医学学校に入りなおした男性、ロシア人の経済学者、アメリカでフェローを終了したフィリピン人外科医、エチオピア人の家庭医などなど。とにかく個性豊かな彼らとコーヒー片手に語らうのは、本当に楽しく、興味深く、何よりも実り多い「勉強」だ。この学校に入學した冥利に尽きる、といっても過言でない。

私の学生生活はまだまだ始まったばかりだ。来年の卒業まで、自分お気に入りのカフェに寄り道しながら、本業はもちろん、食欲に国際交流の研鑽を積む予定である。

さんのスライドを示され非常にわかりやすく盛りだくさんな内容をお話しくださいました。副作用のみ強調されていたビルの効用について幅広い認識を深めることができ、また県下の養護教諭も参加し、総勢五八名の養護教諭も参加し、女医学会のPRにもなり、有意義な事業でした。これがきっかけで、今年の養護教諭の夏季セミナーでも再び「ビル」を取りあげられ、講師として東京都支部の篠崎百合子先生を紹介し、直接十代の健康に向き合っている教育現場の方たちからたいへんよろこばれました。女医学会ネットワークのおかげです。

新設医大の卒業生が出ると女医の数が増え、現在に至っていること。女医に対して差別的なアメリカの実態調査によると近年女医の生産性は男性に比べて決して劣っていないこと。女医が増えることで社会的サービスが支障を来すことはない結論を出しているが、女医の卒業トレーニングが産出、育児で一時中断されるのが問題になっている。日本の場合家族や夫の協力が得られない場合が多い。アメリカでは男性にとつて医師という職業は魅力的でなくなっており、それを補う形で女性の医学部志望者が増えているので、日本もいずれそうなるであろう。法的に働く環境が整備されるであろう。21世紀では、女医はあたり前の存在になり、医師と患者の信頼関係は男女の差より人格の差に左右される。21世紀の女性医師が社会的に容認されるために五項目があげられる。

- ① 自分自身に自信をもつ
- ② 卒業後トレーニングをしっかり受ける
- ③ 出産と育児の時期も仕事を続ける
- ④ たゆまぬ好奇心と探究心をもち続ける
- ⑤ 社会的責任ある言動をする

女医が医師としての職業観をしっかり自覚することが21世紀の女医が抱える問題解決の根本になるものであると結論づけられた。

神奈川支部から

神奈川支部 大竹輝子

2000年に際し、このたびは役員の変更があり、私にとっては支部長として初めての総会を開催することになりました。

AAUW Educational Foundation International Fellowshipのお知らせ

AAUWはAmerican Association of University Womenの略語です。この団体からアメリカ留学のためのフェローシップの公募が参りましたのでお知らせいたします。

年度：2001年—2002年 支給額：\$ 16,860

選定基準：

- ① 学問的に優秀でリーダーシップの能力が証明される人
- ② 地域あるいは職場の中で他の女性と協調できる人
- ③ 女性の地位向上のために研究を続ける人
- ④ 留学後、確実に自国に戻る人

資格：

- ① 以前または現在、AAUWフェローシップをもらっている人は申請できない。
- ② 申請者は、2000年12月31日以前に学位またはそれと同等の資格を有すること。
- ③ アメリカ人およびアメリカとの二重国籍を有するものは申請できない。

応募期限：

- ① 正式書類提出期限：2000年12月15日消印有効
2001年2月1日までに必着
- ② TOEFLスコア提出期限：2001年2月15日

手数料：AAUWに支払うための\$20.00の為替または小切手を添えること。
参考：2000年—2001年の応募者は1,104名、授与者は47名。

*詳細は事務局にありますので、申請希望者はお申し出ください。

(ナショナルコーディネーター 平敷淳子)

神奈川支部から

神奈川支部 大竹輝子

毎日の猛暑の中、出席者は二名、神奈川支部は年一回の総会及び学術講演会を致しておりますが、今回は松岡瑠美子先生(国際分子細胞免疫センター主任研究員)をお招きして「包括遺伝子医療の実際」と題して斬新な興味溢れるお話を伺うこと

日時：7月15日(土)午後2時~6時
場所：横浜駅東口そごう十階
タリヤルーム

り報告、承認される。

三、各報告

【事業部】

丸茂理事

・総会日に開催したバザーは成功裡に終了。収益金二四七、七六〇円の収入があった。

【学術部】

平敷理事

・10月1日(日)に東京シテイクラブで、メルボルン大学、Lorraine Demerstein 教授、早乙智子会員等による「Women's Health」に関する講演会を開催。

【広報部】

村田理事

・第162号会誌を発送。第163号会誌の原稿を依頼中。

協議事項

一、役員役務分担の件

二、平成12年度役員会開催日および開催時刻の件

事業部	副会長	理事
石原	平敷、丸茂、村田、吉崎	
庶務部	石原	鹿田、清水、久田、山本蒔子
広報部	橋川	大坪、松井、山崎康子
会計部	橋川	青井、川田、森川
学術部	加藤	内濁、澤口、山本縊子
渉外部	加藤	田中、角田、山崎トヨ

第25回国際女医学会議のご案内

第25回国際女医学会議はオーストラリアのシドニーで2001年4月19日から23日までの会期で開催されます。

テーマは多様な文化圏での女性の健康 (Women's Health in a Multicultural World) です。

抄録締めきり：2000年11月30日
登録締めきり：2001年1月31日
会場：シドニー ヒルトンホテル
登録費：八二五オーストラリアドル

登録費には、4月19日のウェルカムカクテルパーティー、午前午後のお茶、ランチ、ワークショップ、講演会場への移動費を含みます。

・国際女医学会議で用意されたツアーもたくさん組まれております。
・日本女医学会も団体を組み、会議出席および観光のツアーをいろいろ用意しております。
・事務局にご案内や抄録用紙を用意してありますので、お気軽にお問い合わせください。

・別紙開催日を承認。

・7月22日の理事会後に新・旧役員
の懇親会を予定しているため、当日
の理事会は、会場の東京シテイク
ラブで午後2時30分より開催する。
三、第45回定時総会の反省
・今後は庶務より議事進行(案)を作
成し、もっとスムーズに進行できる
ように努力する。

・11年度の事業・決算も議題として
承認を得た方がよいとの意見が出さ
れ、医師会等を参考にしてみ直す。
・理事席の位置を検討する。
・総会の間に特別講演会を行ったに
もかわらず、順調に進行した。

四、女医の環境整備小委員会のあり方
・予算としては三〇万円あるが、専
門部会として少人数・小グループで
構成して、効率よく具体策を出すよ
うに努力する。

・委員会の経過報告を会誌に載せる。
・女性医師として不合理な「夫婦別
姓」、「認定医・専門医の単位」等の
問題も取り上げる。

・各医学会に学会開催時の保育所設
置の要望書を提出する。
・新体制になり、改めて出席役員に
メンバーになるか否かの希望をとつ
た。また専門部会として、他の分野
から委員を入れるか否か検討した。

五、会員名簿発行の件
・変更分のみ小冊子にしてはとの意
見がでたが、紛失の恐れもあるので
現行通りにする。

・広告の協力を依頼する薬品会社等
を次回理事会でおおむね決める。

六、百周年記念事業の件

・事業の諸活動は百周年記念事業基
金より賄う。
・プロによりり・メイクされたロゴ
マークの意見をまとめる。
七、公開講演会の件
・北海道支部より11月に予定してい
る講演会の支援の要請があったが、
まだ支援の方法等を事業部で検討中
のため、現在のところ決定できない
むね連絡する。

八、その他
・北海道支部より「有珠山噴火義援
金が総会で16万円余り集まり、支部
と合計して202,183円北海道新聞社
を通じ日本赤十字社に寄付した」と
の報告が橋本会長よりあった。

副会長(庶務担当) 石原/鹿田、清水

会員動静(敬称略)

- ◇入会
鈴木 祐子 (昭和56年卒) 山形
安達恵美子 (昭和37年卒) 千葉
宇田川篤子 (昭和44年卒) 北
小池 梨花 (昭和60年卒) 中央
豊川美枝子 (昭和12年卒) 中
中原千恵子 (昭和36年卒) 文
高山 博子 (昭和37年卒) 練
平山玖美子 (昭和43年卒) 練
細川美智子 (昭和21年卒) 愛
川室 優 (昭和45年卒) 新
北原ます子 (昭和31年卒) 新
吉村 江理 (平成6年卒) 高知
◇退会 一七名
◇物故
山吹 ウメ (昭和11年卒) 北海道
酒井千恵子 (昭和23年卒) 福井

編集後記

井上選手が五試合すべて一本勝ちで金メダルを獲得した。まさにシドニーオリンピック真最中の編集であった。「母に最高のプレゼントができた。」と遺影を胸に久しぶりに爽やかな母と子の絆をみた。母性はいつの世にも強い。女性の医学博士第一号である宮川庚子先生も私財を投じ財団をつくり、肝臓撲滅運動の基礎を確立された。毎年この講演の座長をさせて頂いているが、肝炎研究者の錚々たる方々と肝炎友の会の皆様の協力で成功している。やっと4月からIFN再投与が保険適用になった。一步一步の努力の積み重ねである。各支部や地域からの報告を読み、その業績を知る時、ワクワクする思いだ。日本女医学会の百年の歴史にはその重みがある。二十一世紀に向けてあらゆる分野での女性の活躍と女医の飛躍を期待したい。(松井)

日本女医学会誌
第164号
平成12年10月25日発行
編集人 大坪公子
発行人 橋本葉子
制作 橋本剛
発行所 社団法人日本女医学会
東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769
http://www.jade.dti.ne.jp/~jmwa/
e-mail address: jmwa@jade.dti.ne.jp